

SPC研究会
特別コース：ソフトウェアの品質保証の基礎
グループB : <レビュー技法について>

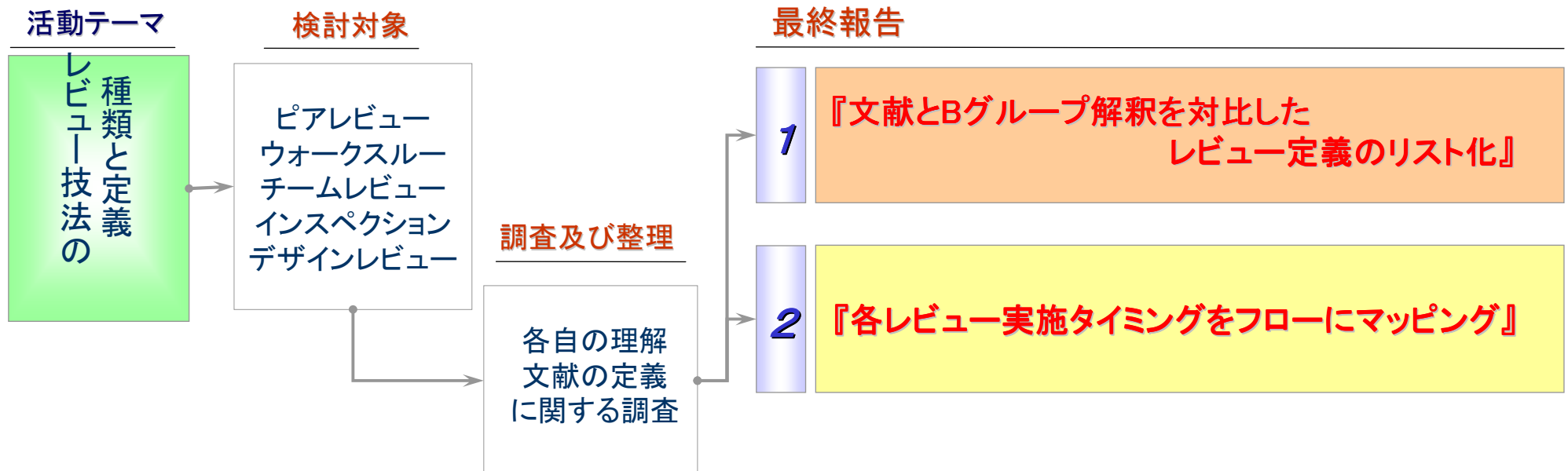
2006年2月24日

副主査 : (株)日立ハイテクノロジーズ 飯泉
リーダー : 住商情報システム(株) 中尾
サブリーダー: (株)セゾン情報システムズ 三善
メンバー : 大崎電気工業(株) 大津
アロカシステムエンジニアリング(株) 鈴木
CRCソリューションズ 澁谷
住商情報システム(株) 中村, 宮本

レビュー技法に関する 最終報告について

□ Bグループ活動経緯

- テーマ選択 グループ討議を進める中で各自でレビューの解釈に相違があったため、主なレビュー技法についてグループ内での理解の統一化を図ることになった
- 活動の目的 『自身の日々の活動における、レビューに対する取組みを認知し、正しいレビュー技法を理解すること』
- 活動経緯 『レビュー技法の種類と定義』をテーマとして、検討対象に 技法の種類(下記の5つ)を上げ、各々の技法に対する定義(「文献からの引用」と「各自の解釈」)を整理



□ 最終報告概要

・前述した5つのレビュー

ピアレビュー、ウォークスルー、チームレビュー、インスペクション、デザインレビュー
について、

『目的』, 『参加者規模及び参加者の役割』, 『対象範囲』, 『データ収集要否』,
『報告書要否』, 『対象となる成果物』を 文献とBグループとしての解釈を対比したリストを作成

⇒ 一覧サマリーとして報告

・各レビューの実施タイミングを視覚化することで、その実施目的・位置付けを明確にしやすいと考え、
Bグループの解釈を元に議論した上で、各レビューを開発工程の中にマッピング

⇒ フローとして報告

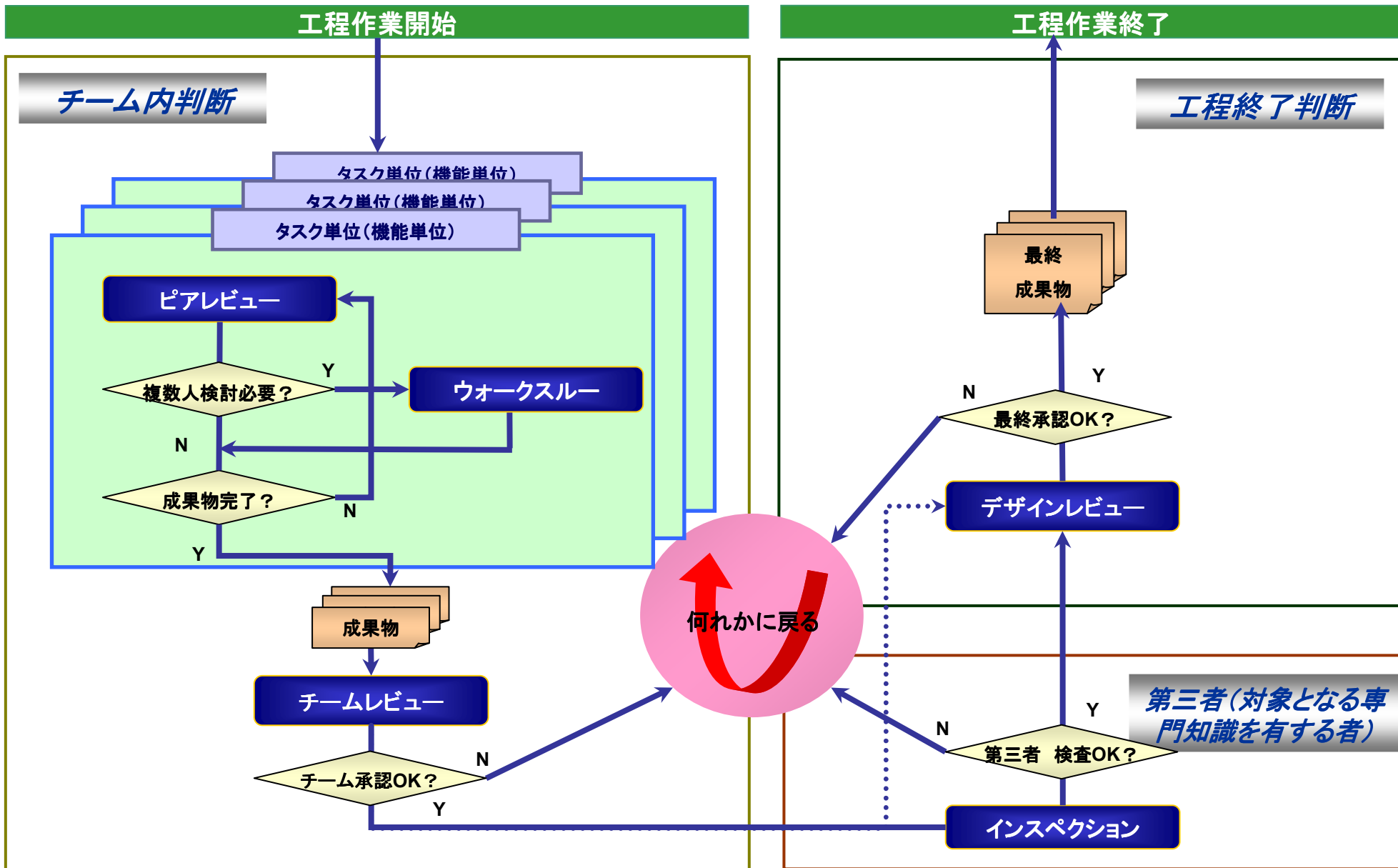
Bグループ解釈に基づく、レビュー定義に関する一覧サマリー

□ 参考文献及びグループ検討を経た、Bグループのレビュー技法に対する解釈

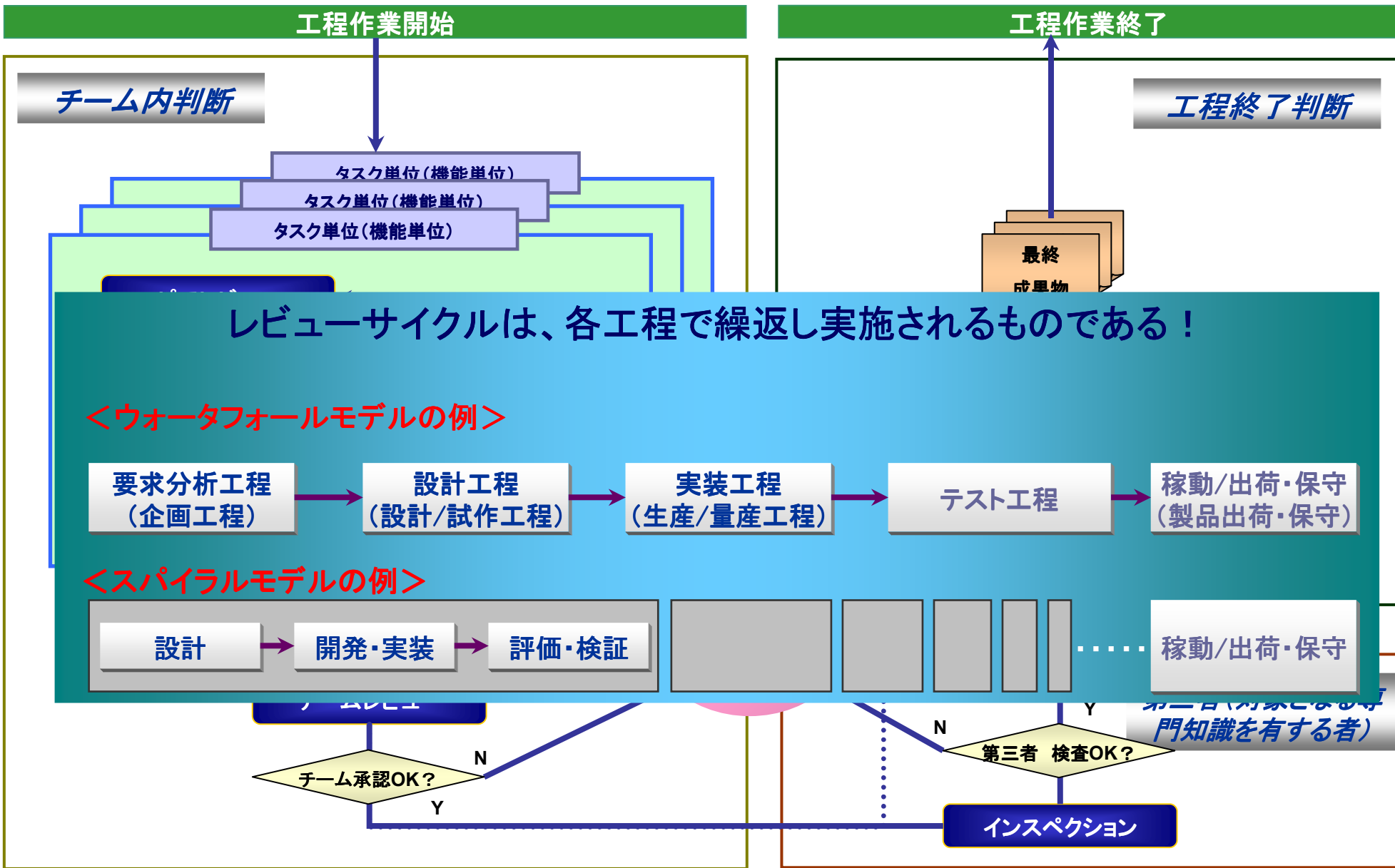
レビュー定義 検討結果として一覧化のポイントとして以下が挙げられる(詳細 リスト参照)

レビュー種類	レビューの定義(Bグループの解釈)	対象	成果物 完成度	会議体 規模	取扱い
ピアレビュー (ピアデスクチェック)	対象物が最小単位(プログラム単体など)で実施されるレビュー 成果物のチェック・検証の形式で実施される(1人)。	単体	低	小	非公式
ウォークスルー	対象物が最小単位(プログラム単体)で実施されるレビュー 作成者の判断で実施されるディスカッション(意見交換)	単体	低	小	非公式
チームレビュー	チームが担う単位(機能やサブシステム)の品質を確保するため、成果物 検証を目的として実施する。また、チーム内の合意形成を実現する目的でも 実施される。	機能	中	中	公式
インスペクション	最も細部まで検査されるレビューであり、必ず完成された成果物に対して 実施する。手順が明確に決まっていることが特徴である。 細部までの検査が必要な箇所に対してのみ実施。	機能	高	中	公式
デザインレビュー	対象成果物の最終段階で実施されるものであり、完成された成果物に対して 実施する。 細部の検査は実施しない。全体に対する承認プロセスの意味合いが強い。	システム 及び 製品	高	大	公式

Bグループの解釈に基づく、レビューの流れ



Bグループの解釈に基づく、レビューの流れ

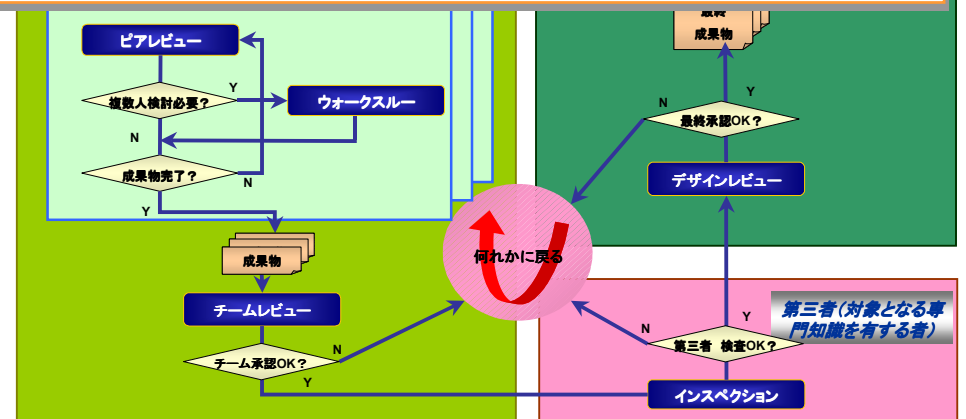


Bグループ解釈に基づく、レビュー実施におけるポイント

『レビューは、
各技法の特徴を理解し適切なタイミングに適切な技法を適用すること、
またその実施タイミングを開発プロセスに組み込み、
定着させていくことが重要である』

当グループのSPC研究会における成果として、
レビューの定義一覧化とそれらの 実施タイミングをフローに関連付け、
効果的にレビュー実施を行うことが、品質向上の一助となる
とチーム理解を得た

2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース	2023年度 特別コース 2024年度 特別コース
1. 目的	2. 対象	3. 実施タイミング	4. 実施体制	5. 実施手順	6. 実施成果	7. 実施上の留意点	8. 実施上の留意点	9. 実施上の留意点	10. 実施上の留意点
...



□ 検討してきた過程で 文献定義や各自の理解で議論となった内容を明記

1. ピアレビューとは

ピアレビューについては、広義のインスペクション・ウォークスルーを包括したものと位置づける文献があり、ピアレビューの定義が何であるかの理解に苦労した。
中でもウォークスルーとピアレビューの境界線が人数だけの違いと解釈できる文献もあった。

Bグループの理解としては、(ピアレビュー = ピアデスクチェック)として、境界線を定義し、
・『ピアレビュー(ピアデスクチェック)』として、作成者参加なしに検証者に対象成果物の検査を依頼する
(参加者 1名)レビュー
・『ウォークスルー』として、作成者の判断で自らが開催/実施し説明者となり、参加者に意見を受けるレビュー
と捉えて一覧化した。

2. インスペクションとデザインレビュー

インスペクションは細部の検査を実施するのに対して、実際にはデザインレビューと称して細部の検査を実施する場合がある。これは本来はインスペクションに当たるのではないか？

Bグループの理解としては、対象成果物の細部に至る検証を実施するため、インスペクションと捉えた。

3. チームレビューの定義について

チームレビューという言葉自体があまり一般的でなく、記載されている文献も少いため定義に苦労した。
インスペクションとの違いは公式か非公式かの違いだけ？などの議論もあった。

Bグループの理解としては、チーム役割内の機能及び機能群 成果物に対して 機能整合確保・検査・品質確保を目的として実施される レビューと捉えて一覧化した。

参考文献など

□ 参考文献

基礎から学ぶソフトウェアテスト 日経BP社

ピアレビュー ～高品質ソフトウェア開発のために 日経BP社

日経BPソフトプレス『ピアレビュー』, 同 『体系的ソフトウェアテスト入門』

所属会社の手順書、親会社の手順書の設計管理

Watts S. Humphrey著 藤野 喜一監訳 「ソフトウェアプロセス成熟度の改善」

Karl E. Wieggers 著 大久保 雅一 監訳 「ピアレビュー」

□ 参考Webサイト

Mint(経営情報研究会)著 「ソフトウェア開発の実践」

デザインレビュー:http://www.sesame.jp/knowledge/terms_main_files/terms-ta.html (組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会)(SESSAME)

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/adamosute/software-process/processtopics.htm> ソフトウェアプロセスのトピック情報

http://www.sesame.jp/knowledge/terms_main_files/terms.html 組込みソフトウェア管理者・技術者向け用語集